
運命なんてない。

宮古架小利

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命なんてない。

【Nコード】

N7113B

【作者名】

宮古架小利

【あらすじ】

運命なんてないわ——運命を信じない日向子が名津と出会って。自分でつむぐ言葉の大切さ。

（前書き）

運命を信じてる人は見ない方が…。運命を否定してる作品なので。

「日向子 ひなこ ちゃんって、大学2年生なの？」

「そうだけど」

「どこ住んでんの？」

「福岡」

「うそつ、俺も福岡。偶然。あ、必然かあ」

——はあ？

ばかじゃないの？

「なんか、運命感じるんだけどー」

うわ、痛！。

運命って。

朋美　ともみ　による強制合コン。

「イケメン集めたから、ねっ？」

何が

「ねっ？」よ。

イケメン？どこが。

頭空っぽのばか蛙ばかりじゃない。

「ねえ、佐藤君」

「えッ！何！？」

「私、運命とか信じないタチなのよね」

「え？」

「運命運命って軽ーく言いまくる奴って、大嫌いなもの」

「……………へ？」

あーあ。

その声やめなさいよ、ばか丸出しだから。

「ばいばい。——席替えタイム！」

「へっ！？日向子ちゃ……」

運命って、何？

最近の奴ら、運命運命って言い過ぎじゃないの？

同じクラスになったら、

「運命」。

電車で毎日乗り合わせる男が落としたハンカチを拾ってくれたら、
「運命」。

運命の赤い糸なんてあったら、街中系だらけじゃない。

人との出会いを全て運命で片付けるのは、確かに楽。

「貴方と私の出会いは運命なんだね」って言うのと、とても綺麗だもの。

でも私は、そんな綺麗事言う奴にはなりたくない。

運命なんて、ないわ。

「日向子、席替え終わったよ？」

「え？あ、ごめん」

ばか蛙が座つてた席に座つたのは、男だつた。

…いや、『男だつた』ことは当たり前なんだけど。

なんか…、
特徴がない。

「平凡…」

「へへ、ごめんね」

「…！」

やばい。普通に口に出しちゃった。

目の前の男は、特に気に障つた様子ではない。

「気にしないで。いっつも言われるんだ。君、名前は？」

「え、…日向子」

「日向子ちゃんか。可愛い名前だねー。僕、名津 なつ って言うんだ。よろしく」

「…はあ」

名津。

…人懐っこい子。
名前ぴったり。

「ねえ、名津」

「ん、なあに、日向子ちゃん」

「日向子でいい」

「え、そう？じゃあ、日向子。…恥ずかしいかも」

「質問いい？」

「いいよ？」

「…蛙つて、好き？」

「…ええ？えへへ、うん、嫌いではないよ」

「…ふうん」

「蛙嫌いなの？」

「ん…、嫌いではないよ、本物なら」

「本物？…へへ、日向子変なのー」

「何よ。…えへへ」

2人で、笑った。

何か判らないけど、何かおかしくて。

ばっかぽくて。

「氣い、あうのかな」

「うん、あうのかな」

「あうんだね」

「うん、あうんだね」

「じゃあ皆さん解散しましょーか！」

朋美の声。

「またね」

「うん、またね」

自然に、またね、って。

運命なんて信じない。

『運命』なんて物に頼りきるなんてばかみたい。

自分で、
開かなきゃ。

赤い糸は、
自分でつむがなきゃ。

『またね』は、
私が、

私自身でつむいだ言葉。

彼が、
彼自身でつむいだ言葉。

運命なんか頼らない、

自分の、糸。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7113b/>

運命なんてない。

2011年1月11日16時44分発行